

平成30年6月27日現在

機関番号：34508

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02281

研究課題名(和文)「1920年代における海港都市神戸の文化的通路をめぐる多角的研究」

研究課題名(英文) A Multitiered Study on the cultural routes of Kobe as a port city in the 1920s.

研究代表者

箕野 聡子 (mino, toshiko)

神戸海星女子学院大学・現代人間学部・教授

研究者番号：20411861

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、海港都市神戸の文化の実相を究明した。従来のモダニズムの概念規定に配慮しつつも、一般市民の生活や芸術活動などの存在も踏まえた文化の多層性を明らかにするため、地元に着目した新聞資料地方版の分析を行った。資料として、1920年代の『大阪朝日新聞』の「神戸附録」・「神戸版」をPDF化し、実証的な調査研究を行った。その成果を、日本近代文学会関西支部のシンポジウムで発表し、学会編集の書籍に掲載する論文を執筆した。また、ゲストスピーカーを迎えた神戸でのシンポジウムを主催して学術的な交流を行った。さらに神戸文学館においてメンバーが講演・文学散歩を複数回行い、市民との交流・情報交換を行った。

研究成果の概要(英文)：As a port city, Kobe had been a gateway for foreign culture in the 1920s, and created Modernism by adapting new culture flexibly. The purpose of this study is to reveal real state of Modernism at that time by focusing on various aspects including the everyday life of residents or artistic activities. In this research, articles from the 1920's Kobe editions of Osaka Asahi Newspaper were accessed and converted to PDF, and with relevant data analyzed from multiple points of view.

The result of this study was firstly delivered at the symposium of Association for Modern Japanese Literary Studies(AMJLS) Kansai branch, then published in the associated publication. The outcome was shared in an academic meeting held in Kobe with guest speakers, also with the general public through talk sessions and literary walks at Kobe City Museum of Literature.

研究分野：人文学

キーワード：近代文学 日本文学 神戸 文化 モダニズム 港湾都市 関東大震災 阪神

1. 研究開始当初の背景

これまでの神戸文化研究には、外国人居留地を中心とした文化研究、宝塚などの周辺都市を含む阪神間の都市文化を対象としたモダニズム研究など、重厚な蓄積があった。本研究は、それらの恩恵に浴しつつ、自明のものとしてある「神戸モダニズム」という言葉を、新たな角度からもう一度見つめ直し、その定義を再構築することから始まった。新たな角度とは、神戸市民の文化的参加や受容者としての役割の見直しなど、文化を受容する側の視線、また現在には消え去った芸術家や作家などの表現者を現在に連なる神戸文化史に位置づける視座等を主に指している。

我々は、2010年度から始めた神戸近代文化研究会において1920年代の『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』の記事を調査し、メンバーが特に探究すべきであると判断した事象について、深く掘り下げる個別研究を行ってきた。そして2013年度には、1923年の記事に的を絞り、その内容を網羅的に調査・データベース化し、その調査結果を二つの学術論文として報告した。

これまでの調査研究を土台として、さらにより網羅的な研究を深めるために、本研究は1920年代の『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』の文化欄・文芸関連記事を徹底的に洗い直すことで、神戸文化を形成する表現者と受容者との相互作用を多層的かつ立体的に検証しようとするものである。

2. 研究の目的

(1) 1920年代の『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』に掲載されたすべての記事を基礎データとすることで、文化人や特定の芸術家のみではなく、読者も含めた一般市民の動向も研究対象とし、時代と地域に蠢く文化の流動を捉える。それは、メディアを通して表現された神戸の機能性や生産性に光をあてることでもある。

(2) 関東大震災前後の神戸を文化流動の結節点と捉えることで、後の全国的な文化の流れの一部を可視化する。神戸の文化動きを基準に、芸術やイデオロギーといった様々な文化的素養を摂取した人々の移動の事例を、地域に密着したメディアを資料として検証することで、神戸文化の人的ネットワークの内実を提示する。

(3) 地方紙という性格も持つ『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』から読み取れる文化情報によって、これまでの「神戸文化 = モダニズム」という固定した捉え方に対峙する文化研究を切り開く。

(4) メディアの読者への直接的な影響力を明らかにする。新聞の地方版というメディアは読者との距離が近い。読者との相互の働きかけの実情を可視化する。

3. 研究の方法

(1) 港湾都市神戸の文化的な動きを立体的に捉えるために、『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』に載った文化関連記事すべてに目を通し、さらにその他雑誌なども補助的資料として活用して、文化記事のデータ化を進める。

(2) 「文学」「美術」「建築」「文化」「労働運動」「古典芸能」「演劇」「映画」など、より具体的な研究課題を設定してメンバーに割り振り、各自研究を重ね、その成果を研究集会において共有する。その際、『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』を共通の基礎資料とする。

(3) メンバー全員が関西に在住・勤務している地の利を活かして実地調査も行い、神戸在住の詩人・在野の研究者をゲストスピーカーとして招き、神戸の文化生成についての考察を重ねる。

4. 研究成果

(1) 現存する、1920年～1929年の『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』の

マイクロフィルムから、全紙面のデータを複写し、PDF化した。その情報をメンバー全員で共有化し、文化関連記事の網羅的調査を行った。

(2) 『大阪朝日新聞神戸附録』『大阪朝日新聞神戸版』を基礎資料として進めた各自の研究を、日本近代文学会関西支部の連続企画「異なる関西 1920・30年代を中心として」の第1回(1名)・第3回(4名)・第4回(1名)において発表した。第1回では、「昭和初期・神戸の文学青年、及川英雄 文学における中央と地方」の発表を行った。また、第3回では、メンバー4名が、「労働」「映画」「建築」「美術」4分野からのアプローチを、「光源としての『大阪朝日新聞神戸附録』 神戸モダニズムを問い直す」というテーマのもとでおこなった。個々の発表題目は、「結節点としての労働学校・関西学院」、「一九二〇年代半ばの『神戸附録』 映画情報 新聞連載小説の映画化を中心に」、「『理想住宅』と『煌ける城』 一九二〇年代・神戸の建築空間をめぐって」、「前衛芸術と郷土芸術 神戸一九二〇年代文学の後景」である。さらに、第4回では、「大阪朝日新聞神戸支局員と鯉川筋 神戸画廊の活動から見えてくる神戸の文化空間」の発表を行った。なお、これらの研究発表はすべて、日本近代文学会関西支部編による『異なる関西 1920・30年代を中心として』(仮題)に収録され、2018年に出版される予定である。

(3) 神戸近代文化研究会の主催によるシンポジウム「季村敏夫の仕事を囲む会 『山上の蜘蛛』『窓の微風』を読む」を2016年5月に神戸まちづくり会館にて開催した。ゲストの季村敏夫氏は神戸在住の詩人である。さらに研究者としては、これまで見過ごされていた詩人たちの作品からも神戸の詩史を見直そうとする新しい視点を有している点で、神戸近代文化研究会の研究テーマと密接なつながり

持っている。研究会メンバー以外にも一般の参加者を迎えての会とし、多数の日本近代文学研究者や神戸の詩人も加わり、有益な情報交換を行うことができた。

(4) 神戸文学館土曜サロンにおいて、メンバーが、一般の参加者を案内する「文学散歩」を毎年実施した。これは、関西学院が神戸にあった頃(1889年~1929年)の灘区における文学作品の舞台を、実際に訪れる企画である。さらに、神戸文学館では、「企画展 坂道の情景 神戸を描いた文学」(2016年)と「神戸開港150年記念企画展 海岸通の人々」(2017年)との記念講演をメンバーが担当し、文学作品に登場する神戸を通して、港湾都市文化の多様性についての講演を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

大橋毅彦、「画廊」から見る一九三〇年代の神戸文化空間 (付)「ユーモラス・コーベ」・「ユーモラス・ガロー」掲載記事題目一覧、日本文藝研究、査読無、第69巻第2号、2018、pp45~130

箕野聡子、菊池寛と一九二〇年代の神戸 一九二〇年代前半の「大阪朝日新聞 神戸附録」を資料として、神戸海星女子学院大学研究紀要、査読無、第56号、2018、pp40~48

<https://www.kaisei.ac.jp/lib/search/study>

箕野聡子、菊池寛と一九二〇年代の神戸 一九二六年・一九二七年の「大阪朝日新聞 神戸附録」を資料として、文藝もず、査読無、第18号、2017、pp60~65

高木彬、「工場文学」と「冴タ・マキニカリス」 岡下一郎と稲垣足穂の機

械 表象、横光利一研究、査読有、
第 15 号、2017、pp73~90

大橋毅彦、こわれた街・騙りの街
への遠近法 神戸発・昭和詩始動期の
詩人たちの仕事、昭和文学研究、査
読有、第 73 集、2016、pp14~27

箕野聡子、神戸の香り～宮本輝と阪神間
モダニズム～、神戸海星女子学院大学研
究紀要、査読無、第 54 号、2016、pp51
~59

[https://www.kaisei.ac.jp/lib/search
/study](https://www.kaisei.ac.jp/lib/search/study)

箕野聡子、青谷が語る 神戸海星女子
学院大学周辺の文学、言語文化研究、
査読無、第 2 号、2016、pp27~39

高木彬、稲垣足穂「有楽町の思想」論
グレゴリー夫人、ド・クインシー、
ダンセイニ、フェンスレス、査読無、
第 3 号、2015、pp5~21

〔学会発表〕(計 7 件)

大橋毅彦、大阪朝日新聞神戸支局員と鯉
川筋神戸画廊の活動から見えてくる神
戸の文化空間、日本近代文学会関西支部、
2017 年 6 月 3 日、同志社大学

杉谷英紀、結節点としての労働学校・関
西学院、日本近代文学会関西支部、2016
年 10 月 29 日、甲南女子大学

永井敦子、一九二〇年代半ばの『神戸附
録』映画情報～新聞連載小説の映画化を
中心に～、日本近代文学会関西支部、
2016 年 10 月 29 日、甲南女子大学

高木彬、「理想住宅」と「煌ける城」

一九二〇年代・神戸の建築空間を
めぐって、日本近代文学会関西支部、
2016 年 10 月 29 日、甲南女子大学

島村健司、前衛芸術と郷土芸術 神戸
一九二〇年代文学の後景、日本近代
文学会関西支部、2016 年 10 月 29 日、甲
南女子大学

高木彬、「工場文学」と「オタ・マキニ
カリス」、横光利一文学会、2016 年 3 月
5 日、國學院大学

大東和重、「昭和初期・神戸の文学青年、
及川英雄 文学における中央と地方、
日本近代文学会関西支部、2015 年 11 月
7 日、大阪大学豊中キャンパス

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
箕野 聡子 (MINO, Toshiko)
神戸海星女子学院大学・現代人間学部・教授
研究者番号：20411861

(2)研究分担者

大橋 毅彦 (OHASHI,Takehiko)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：60223921

大東 和重 (OHIGASHI,Kazushige)

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：60434859

山本 欣司 (YAMAMOTO,Kinji)

武庫川女子大学・文学部・教授

研究者番号：00344581

(3)研究協力者

島村 健司 (SHIMAMURA,Kenji)

袖谷 英紀 (SOMATANI,Hidenori)

高木 彬 (TAKAGI,Akira)

永井 敦子 (NAGAI,Atsuko)